

清水嘉治先生定年退職記念号に寄せて

経済学部長 池 上 和 夫

清水嘉治先生は、2000（平成12）年3月31日付けをもって本学を定年ご退職されました。

先生は、1953（昭和28）年横浜市立大学商学部経済学科を卒業後、一橋大学大学院社会学研究科に進まれ、同修士課程を終了後、関東学院大学経済学部助手、専任講師、助教授、教授を経て昭和58年本学経済学部教授に就任されました。以来、本学において17年間にわたり世界経済論、ヨーロッパ経済論等を担当され経済学部教育においても多くの足跡を残されました。

先生のご専門は、ヨーロッパ経済論、世界経済論、経済政策論などスケールの大きな研究であり、ご著書も1965（昭和40）、学位論文である『帝国主義論研究序説』を世に問われて以来、単書だけでも20冊以上の著作を出版されております。特に学部長等の要職に就かれていた時期においても殆ど毎年のごとく研究書を出版し続けるという驚異的なお仕事をされておられました。お仕事の内容は環境問題、地域問題、独占資本主義論、経済政策論等と多岐にわたりますが、近年は特に激動する社会、世界経済の中で市民自治の立場に立脚点を置きつつ改革を模索するお仕事に重点がおかれているように思えます。ご研究との関係から学会での活動も広く、経済政策学会、国際経済学会、国際公共経済学会などでは理事のお仕事等もされておりました。

これらの研究活動以外、学部長、経済学研究科委員長、経済貿易研究所委員長、大学理事、学長事務取扱などを歴任し、また、大学の外では神奈川県公害対策委員、総合計画審議会委員、同専門部会長、副会長、県や横浜市の環境影響評価審査会副会長、会長などのお仕事をされ、幅広く社会的な活動をされている行動する研究者としても世に知られております。社会的な実践を通して

自らの学問を検証する姿勢をとりつづけてきた先生からすればあるいは当然のお仕事であったかもしれません。

しかし、学内外の要職をこなしつつ旺盛な研究活動を続けられてきたことも原因してか、一時体調を崩されたことがありましたが、現在はすっかりお元気になり再び精力的に研究活動を継続されております。

今後とも健康に留意されて益々お元気でご研究を続けられることを心からお祈り申し上げます。